

中越 甲子園へ

7年ぶり12回目

平澤が決勝弾 新潟産大付下す



7年ぶりの甲子園出場を決め、マウンドに集まって喜ぶ中越の選手たち。26日、新潟市中央区のハードオフ・エコスタジアム

▽決勝(ハードオフ・エコスタジアム)

新潟産大付
中越

2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2	0	0	0	0	0	1	0	×	3

第107回全国高校野球選手権新潟大会は26日、新潟市中央区のハードオフ・エコスタジアムで決勝を行い、中越が新潟産大付を3-2で下して優勝し、7年ぶり12回目の甲子園出場を決めた。中越の甲子園出場回数は、日本文理と並んで県内最多となった。

中越は2点を先制された一回、内野安打と押し出しの四球などで同点とした。七回には平澤謙太選手がライトにソロ本塁打を放ち、勝ち越した。

先発の石山愛輝投手から一回途中にマウンドを引き継いだ今大会初登板の左腕遠藤快斗投手が好救援。七回途中まで投げ、得点を与えなかった。以降はエースの雨木天空投手が反撃を許さなかった。

新潟産大付は今大会を1人で投げ抜いてきた小平乃希投手が完投し、初回には先制の適時二塁打を放ったが、及ばなかった。

中越の窪田優智主将は甲子園に向け「甲子園でも勝ち進むことを目標にしてきた。さらに練習して臨みたい」と話した。

全国高校野球選手権は8月5日、兵庫県甲子園球場で開幕する。組み合わせ抽選は3日に行われる。